

た。5組交配させた結果、これまでに2組で妊娠が確認され分娩にまで至り、11匹の子マウスが誕生し、現在4個体が生存している。このマウスに関してはまだ生まれて間もないため、遺伝子型の解析を行っていない。交配に用いたメス個体の体重は平均(約20グラム)より少なかった(約15グラム)為か、生まれた子マウスはuPA(+/-)SCID同士またはuPA(+/-)SCIDとuPA(+/+)SCIDの交配の交配で生まれた子マウスと比較し小さかった。

D. 考察

uPA(+/+)SCID同士の交配でも繁殖可能であることが示唆された。繁殖に用いるメス個体は体重も十分増加し、体力的にも妊娠および分娩に耐えられる個体を用いることが必要であろうと思われた。uPA(+/+)SCID同士を交配した場合、生じる全ての個体がuPA(+/+)SCIDとなる。このことを今後生まれるマウスの遺伝子型を

解析し、確認する必要がある。予想通りであれば、これまでの繁殖方法と比較しuPA(+/+)SCIDが4倍の効率で得られることとなる。

E. 結論

uPA(+/+)SCIDマウスに正常マウス肝細胞を移植し繁殖に用いることにより、これまでの繁殖方法と比較して高効率でuPA(+/+)SCIDを得ることが可能となった。

F. 健康危険情報：なし

G. 研究発表

1. 論文発表：なし
2. 学会発表：なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得：なし
2. 実用新案登録：なし
3. その他：なし

6. 研究成果の刊行に関する一覧表

平成14年度の研究成果の刊行物は無し。

研究成果の刊行物・別刷

平成14年度の研究成果の刊行物および別刷は無し。

7. 研究成果による特許権などの知的財産権の出・登録状況

該当なし

8. 健康危険情報

該当なし